

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 洞北中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立洞北中学校 ・第3学年 172名 ・職員 15名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック推進事業 「ブラインドサッカー体験」)
4 目標 (ねらい)	・視覚に障害をもった方々の生活上の苦労や工夫を知り、ブラインドサッカーの体験を通して、さまざまな障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ・ブラインドサッカーの選手の話の聞いたり、アイマスクを着用してのブラインドサッカーを体験したりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	「ブラインドサッカー体験」 日 時 令和元年11月13日(金) 9:00~12:20 場 所 北九州市立洞北中学校体育館 参加者 第3学年172名、職員15名 活 動 ○講話・DVD 視聴 3年全 講師紹介 講師 光安 和久 先生 「視覚障害について。ブラインドサッカー講演会」 講演会のテーマは「協同」。アイマスクを着用し、視覚障害の人の立場になって、実際に歩行してみたり、リードしてあげたりする。助けてあげるといふ感覚ではなく、一緒に力を合わせて、乗り越える気持ちが大切である。



DVD鑑賞では、パラリンピックのダイジェスト動画を見て、パラリンピックに対して関心をもつことが大切である。

○デモンストレーション

ACEのブラインドサッカー選手のデモンストレーション



○ブラインドサッカー体験

2校時：生徒69名+職員、残りのクラスは授業


- ①アイマスクを着用し、歩行訓練をする。
- ②軽く走りながら歩行する。
- ③サッカーボールを使って、グループでパスを行う。
※グループは、8人班×8グループ



最初は生徒も戸惑いを見せたが、光安先生のアドバイスや友人の掛け声でパスが上達していき、練習も盛り上がった。



簡単なゲームを行い、お互いに競い合った。

	<p>○休憩・交代 ○ブラインドサッカー体験 3校時：生徒103名＋職員、残りのクラスは授業</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害のある選手との交流を通して、身近なところで出会う障害のある方々との関わり方について、様々な感じ方や考え方を持つ時間となった。そして、ボランティア・マインドの育成につなげることができた。 ・実際に体験をすることで、日常生活での不自由さなどについて共感しやすくなった。また、バリアフリーやユニバーサルデザインの大切さに気づき、偏見や差別等の人権尊重の面でも多くのことを感じとることができた。 ・「ブラインドサッカー」というパラリンピック種目を間近で見ることで、東京2020オリンピック・パラリンピック大会への関心をより一層高めることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に視覚障害者の立場で体験ができるように、全ての生徒にアイマスクを準備した。 ・けが防止や安全面の確保のため、職員の配置や体育館の場の設定など行った。 ・人数が多い学校の場合は、クラスを分けて理解が深まるように工夫した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の綿密な事前打ち合わせが必要である。 ・平日は、ブラインドサッカー選手が仕事の関係で来校できない方が多いため、土曜授業で行うのが望ましい。 ・人数の多い学校の場合は、体験学習を行う際は、人数制限の必要があったので、時間割の調整をして分けて行うのがよい。 ・継続的に取り組みを行うことに効果があるので、事前学習や事後指導をきちんと行う必要がある。
<p>9来年度以降の 実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、東京オリンピック開催までに障害者スポーツを通じて、パラリンピック競技について知る活動を取り入れ、障害者への理解を深める学習や体力向上の取り組みとしてパラリンピック種目を授業で行う予定である。 ・大会開催後も、様々なオリンピック・パラリンピック種目や選手に注目し、スポーツやオリパラの意義や価値について理解させていきたい。